

コミュニティ形成の場に人を集めるためのプロセスモデルによるまちづくり提案

○関西大学 学生会員 小濱 諒
 関西大学 正会員 北詰恵一

1. 目的

人々のつながりの醸成やコミュニティ・地域の活性化を目的としたまちづくりが多くの地域で実施されている。まちづくりにより活性化したまちには、人々に活力があり、ビジネスが好調で、その結果人が集まるといった特徴をもっていると考えられる。そこで、本研究ではまちづくりを捉えるにあたり、人の集まりという点に着目することとする。また本研究と並行して、吹田市市民協働学習センターが主催する吹田学塾に参加し、吹田市における人が集まり賑わいが生まれるしかけというテーマで多世代の方々で議論した。その中で扱った千里ニュータウン近隣センターにおいて人の集まりを発生させるためのしかけを提案し、それをもとにコミュニティ形成の場に人が集まるためのプロセスモデルの構築を行い、最終的にまちづくりの新たな指針となるものを提案することを本研究の目的とする。

2. 3つの性質の抽出

本研究グループは、まちづくりに関する既存の研究や著書を体系的に分析し、コミュニティ形成の場に人が集まるためには「場の性質」、「人の性質」、「しかけの性質」の3つの性質が重要だと考えた。それに基づき、それぞれを、まちづくりプロセスに大きく影響する要素としての詳細定義を次のようにまとめる¹⁾。

「場の性質」を基盤要素と活動要素と定義する。日常的に変化しない地形や気候などの自然資源、まちの景観や駅からの距離などの空間資源、歴史資源を基盤要素とし、地域資源や観光資源などの活用資源とまちや場の賑わいなどの活力を活動要素とする。「人の性質」を人の属性、地域への意識、行動力と定義する。人の属性は年齢、性別、職の有無とし、地域への意識は愛着度や地域活動への参加状況とし、行動力はリーダー・発案者・組織の存在、主体の種類とする。「しかけの性質」を発生のおき、方向性、継続性と定義する。発生のおきとは自然発生か、目的を誘発し発生するのか、目的をもって発生させているのかであり、

方向性とは自地域、それとも他地域に向けたしかけなのかであり、継続性とは単発的か継続的かである。

3. 千里ニュータウン近隣センターにおける適用

本研究と並行して、まちづくりのアイデアを議論する実践として、まちづくり吹田学塾に参加した。

(1)まちづくり吹田学塾の概要

まちづくり吹田学塾とは、吹田市市民協働学習センターが主催する取組みで、多世代の人々が議論し、市政や市勢全般についての知識を習得し、まちづくりのあり方や地域貢献活動を考える講座である。

(2)千里ニュータウン近隣センターについて²⁾

吹田学塾の中で扱った千里ニュータウンの吹田市近隣センターについて本研究にも活用する。

近隣センターは徒歩圏において日常の生活の利便性を提供するための場所として、各住区に1～2箇所配置するように計画された。しかし、居住者のライフスタイルの多様化や社会状況の大きな変化などにより、近隣センターの商業環境は大きく変化し、店舗数の減少など商業の衰退が進んでいる。

(3)千里 NT 近隣センターにおける3つの性質の適用³⁾

千里ニュータウン近隣センターに関する既存の研究等のデータや吹田学塾での議論内容、現地調査で明らかになったことのまとめから、千里ニュータウン近隣センターにおける3つの性質を抽出する。

本研究では、表-1に示すように、近隣センターの現状を分析し「場の性質」、「人の性質」を抽出し分類、どのような「しかけの性質」が必要か提案する。

表-1 近隣センターの「人の性質」、「場の性質」の分類指標

人の性質	人の属性	人口伸び率、人口数
	地域への意識	利用頻度、商業施設としての意識
場の性質	基盤要素	地区センターなどの商業施設の商圏との重なり、最寄り駅からの距離
	活動要素	核店舗、地域資源、場の賑わい、近隣センターの形状、周辺の状況

キーワード まちづくり・ニュータウン・近隣センター

小濱 諒 61aaack@gmail.com 09020625909 北詰 恵一 kitazume@kansai-u.ac.jp

(4)千里ニュータウン近隣センターの分類

吹田市内にある千里ニュータウン近隣センターは、青山台、藤白台、古江台、津雲台、高野台、佐竹台、竹見台、桃山台の8つがあり、上記に示した分類指標で分析し、図-1に示す4つのタイプに分類した。

本研究では、近隣センターについての提案は大規模なハード整備や他地域の人を大量に集めることを目的とするしかけではなく、小さな人の集まりでも持続的で一過性のものにならないしかけを意識して提案することとした。

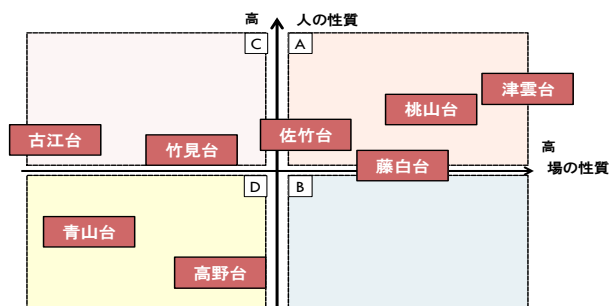


図-1 近隣センターの分類図

表-2 タイプごとのプロセスと提案

	プロセス	提案内容
		近隣住民が近隣センターに集まる理想図 場の性質 人の性質
A		場の性質を活かしたしきけ 小さく持続的なしきけ →活性しきけ型
B		人の性質を高めるしきけ 人の認識・愛着を促すしくみ →人の意識向上型
C		場の性質を高めるしきけ 場の賑わいの醸成・誘発 →場の潜在力活性型
D		場の根本的な改変 外部から強力なリーダーを連れてくる →変革型

表-2に示すように、例えば、Dに分類される変革型の近隣センターは、根本的な変革が必要であり、時間をかけて持続的にゆっくりとしきけることでD→B・C→Aとプロセスを踏んでいき、近隣センターに人の集まりが形成されると考えられる。また、Aに分類される桃山台近隣センターでは、特徴的なオープンスペースを活用したイベントや行事を積極的に行うことが必要であると提案された。

(5)コミュニティ形成の場人が集まるためのプロセスモデルの構築

タイプごとの提案内容については、個々のタイプの特性を踏まえて議論により導き出し、3つの性質を用いると適切なしくみができた。このしくみからコミュニティ形成の場人が集まるためのプロセスモデルの一般化を試みると、図-3のようなモデルを構築することができる。

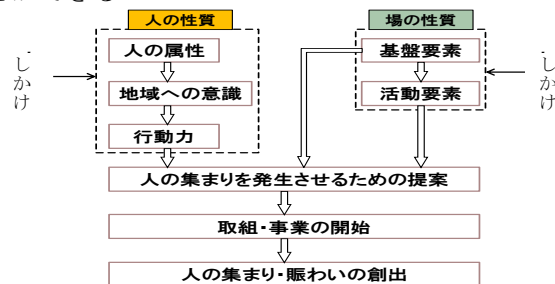


図-3 人が集まるためのプロセスモデル

4. プロセスモデルからのまちづくり提案

人の性質に基づくタイプの把握によって、人の属性に合ったしきけを行い、地域への意識を促し、危機感や思いを行動に移すしきけによるリーダー育成や組織設立などの行動力に無理なく変えていくことができる。場の性質に基づくタイプの把握によって、歴史・文化資源や自然資源を有効に利活用し、地域資源の発見や利活用、まちの賑わいを生むしきけをその特性にふさわしい形で施していくことができる。

なお、これらは、持続的にゆっくりとしきけていくことで、さらなる提案が生まれ、その創出につながる。

5. おわりに

まちづくりを人の集まりという視点から分析し、「場」、「人」、「しきけ」の3つの性質の概念を新たなアプローチとして取り入れ、千里ニュータウン近隣センターにおいて適用することでコミュニティ形成の場人が集まるためのプロセスモデルを構築し、このモデルからまちづくりの提案を行うことが出来た。今後は、提案を具体的に進め、実践段階でのプロセスモデル構築を行う必要がある。

参考文献

- 1) 小濱諒・北詰恵一：プロセスモデルのためのまちづくり要素の抽出，土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集，CD-ROM，2014.
- 2) 吹田市：千里ニュータウン近隣センターのあり方について，2012.
- 3) 兵庫県県土整備局：“参画と協働”のまちづくり推進に向けたまちづくり評価手法に関する調査研究報告書，2005.